

# ねずみ駆除協議会の これまでを振り返って

ねずみ駆除協議会 副会長 元木 貢

## ねずみ駆除協議会の歩み

- ▶ 1966(昭和41)年3月15日 設立総会  
会長に佐々学教授  
委員長に成毛彦吉氏を選出
- ▶ 1966(昭和41)年9月 会報第1号発行



ねずみの問題は身近でありながら、科学や技術の世界から敬遠され、疎外されている。一握りの技術者や科学者が集まって、ねずみ駆除協議会の活動を始め、このたび「ねずみ情報」の発刊にもふみ切って、知識の交流をめざすようになったことはまことに喜ばしい(佐々 学)

## 歴代会長

- 1966(昭和41)年～2006(平成18)年 佐々学
- 2007(平成18)年～2011(平成23)年 田中生男
- 2012(平成24)年～ 矢部辰男



## 歴代副会長

- ▶ 1966(昭和41)年～1974(昭和49)年 三宅弘文
- ▶ 1975(昭和50)年～2006(平成18)年 緒方一喜
- ▶ 2007(平成19)年～2011(平成23)年 矢部辰男
- ▶ 2012(平成24)年～ 元木 貢



# 事務局



田中生男



伊藤靖忠



皆川恵子



40年史編集委員会  
(2007.5.22)



ホームページ専門委員会  
(2007.5.16)

# ねずみ供養

明治38年から、本年114回目



平成8(1996)年  
長元院



平成24(2012)年  
八幡神社



平成27(2015)年  
大泉寺

# 祥雲寺(麻布)でねずみ供養と総会(2008年)



# 研究会(2000年)



2000年



2004年



2008年



2010年

## 研究会懇親会（2008年）



## 懐かしの写真



宇田川先生（1987）



草野先生（2007）



長谷川先生（2007）

## 歴代委員長

- ▶ 1966（昭和41）年～1972（昭和47）年 成毛彦吉
- ▶ 1973（昭和48）年～1981（昭和56）年 池田安之助
- ▶ 1982（昭和57）年～2008（平成20）年 元木 貢
- ▶ 2009（平成21）年～ 谷川 力



成毛彦吉



池田安之助



元木 貢



谷川 力

## 会報第1号発行 1966年（昭和41年）年9月

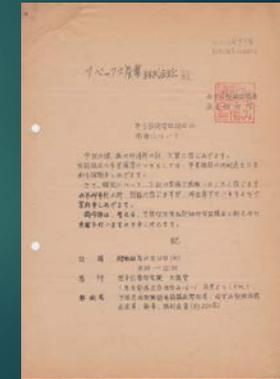
「ねずみ情報」の発刊に寄せる  
新潟県と板保健所管内におけるねずみ駆除体制はどうあるべきか  
ネズミ駆除についての若干の考察  
流行性出血熱の媒介動物について  
コンテナ輸送と検疫  
駆チュウ戦略 40 項  
ネズミの害  
資料編集方針について

## 第1回ねずみ研究懇談会 昭和42年9月1日 於・日本環境衛生センター

1. 行政の立場から（横浜市・布施雪夫）
  - ・市町村が実施している全域ねずみ駆除は効果に問題がある  
吏員と地区指導者の意欲・態度・知識
  - ・横浜市ではねずみ生息状況が局地多生化
  - ・ネズミアンケート 生息38.0%、餌消失78.8%
  - ・駆除業者は技術が低い、効果判定をしない、使用薬剤にも問題がある
2. 研究機関の立場から（横浜市衛研・大島司郎）
  - ・駆除技術を確立する（評価方法が大事）
  - ・餌慣らしが必要（毒餌配布時に無毒餌も添付する）
  - ・ね協に今後の強力な活躍を期待する（情報交換、研究分担、標準的な駆除要領の制定）

## 第5回研究懇談会 1969（昭和44）年 シンポジウム「ねずみは根絶できるか」

場 所：国立公衆衛生院大講堂  
参加者：そ族昆虫駆除研究協議会  
ねずみ駆除協議会  
など250名



## 挨拶 東京大学医科学研究所長 ねずみ駆除協議会会長 佐々 学

ネズミ駆除で考えること

第1 ネズミの生理や生態

第2 ネズミの害や駆除

第3 ネズミの人類に対する役割

重要な実験動物

毒性の強い理由で捨てられた化合物の中から

殺鼠剤が生まれる

## 農村行政の立場から 新潟県子坂保健所 百都保司

- 1) ネズミ駆除行政はこれで良いか  
必要性をPR、衛生担当者が少ない、勤務年数が少ない、  
2~3年で配置転換
- 2) ネズミ駆除体制の確立が必要 民間組織が停滞
- 3) ネズミ駆除指導のあり方  
一斉駆除の習慣化、市民に駆除意欲を、メーカーの技術指導
- 4) PCOに期待する
- 5) 防鼠建築の推進

## 地区組織指導者の立場から 埼玉県環境衛生推進協議会 大川時次郎

- 1) 行政と地区組織活動とのパイプ役
- 2) 都市化により地区組織活動が難しくなった
- 3) 住民のNEEDを把握し実践活動する  
駆除活動に関心を持たせる
- 4) 環境整備立ち遅れ  
地区住民と関係する行政が一体となって総合的な活動が望まれる
- 5) 自発的な駆除活動を育てる  
調査したところ、自発的に駆除をしている人は88%（ハエ・カ50%、  
ネズミ33%）、ネズミが減っていると回答した人は54%  
使用殺鼠剤は、低湿地帯ではクマリン、高台ではシリロシド・硫酸タリウ  
ム、  
殺鼠剤を使用した人は40%、1世帯が200～300円使用していた

## 都市行政の立場から 東京都衛生局予防部防疫課 安元宗一郎

- 1) ネズミの分布状況  
都内一般住宅で人口1人当たり0.6頭、繁華街で2～3頭  
昭和30年 ドブネズミ58%、クマネズミ41%  
昭和42年 ドブネズミ90.5%、クマネズミ8.6%
- 2) 駆除対策の現状  
各区市町村で衛生班の指導で10～3月に一斉駆除を行っている  
町会、自治会、婦人会、商店会に指導、薬剤の一斉配布  
ビルでは管理者を指導 千代田区では昭和40年に70%で駆除実施  
そのうちPCOに委託は49%
- 3) 駆除対策の問題点  
行政の横のつながりがない（環境衛生課・食品衛生課など）  
現在、各世帯に既成毒餌の無償配布  
殺虫消毒取締条例で届け出のあるPCOは148社（1人1社が64社、10人以上は14社）

- 4) 駆除対策の問題点
  - ・ 縦割り行政
  - ・ 伝染病予防法で吏員の立ち入り権、
  - ・ ビルでは指導から監視へ
  - ・ PCOの指導育成、資格認定制度の確立
- 5) 今後の駆除の考え方
  - ・ 建築基準法に防鼠構造基準を入れる
  - ・ 駆除意欲増進のPR

## PCOの立場から PCO連合会会長 元木三喜男

- 1) 生態が把握されていない
- 2) RAT CONTROLとは  
駆除、防鼠、定期検査が必要
- 3) 作業工程が完全に実施されているか  
調査（被害、証拠、環境）、薬剤・毒餌・捕鼠器・接触剤の総合対策、  
定期点検
- 4) 効果的なCONTROL  
ネズミの生態を熟知、駆除技術、委託者・地域住民の協力が必要
- 5) 開発が望まれること  
高嗅食・高殺鼠力・低毒性の殺鼠剤の開発、不妊剤・忌避剤  
食糧管理による生息局限化と駆除の総合施策

## 研究者の立場から 植物防疫協会研究所長 三坂和英

- 1) ネズミは根絶できるか  
条件次第、現状で条件は満足されていない（技術的・行政的・政策的・指導的・実践的など多面にわたる）、不満足な条件を無くす努力
- 2) 駆除に必要な研究活動  
・ネズミのこと、薬剤の効果
- 3) 縦割り行政  
厚生省・農林省に限らず全ての行政に関連する
- 4) ネズミ駆除の考え方  
ネズミへの関心を高める、
- 5) ネズミに関する情報活動  
平時のネズミの生態、ネズミの発生予察など調査活動

## 専門委員会

年	専門委員会名
1967（昭和42）年	そ書調査専門委員会・殺そ剤専門委員会
1969（昭和44）年	調査編集委員会・技術委員会・業務委員会
1971（昭和46）年	用語統一委員会
1985（昭和60）年	防鼠構造専門委員会
1990（平成2）年	被害実態調査専門委員会
1993（平成5）年	ねずみ防除史検討専門委員会
1997（平成9）年	防鼠手引書専門委員会
2001（平成13）年	実態調査・用語検討専門委員会
2004（平成16）年	用語検討専門委員会
2006（平成18）年	ホームページ専門委員会
2007（平成19）年	40年史編集委員会
2008（平成20）年	殺鼠剤問題検討専門委員会
2010（平成22）年	「企画委員会」発足

## 印刷物作製

年	印刷物
1967（昭和42）年	ねずみ駆除ハンドブック ネズミの害事例集・第一集
1974（昭和49）年	ネズミの害事例集・第二集
1990（平成2）年	ビルの防鼠構造・工事マニュアル
1995（平成7）年	都市のネズミによる被害実態（A5判）
1998（平成10）年	ねずみ駆除の手引き（一般家屋用）
2001（平成13）年	ねずみ駆除の手引き（飲食店用）
2006（平成18）年	家ねずみ用語事典

## ねずみ駆除ハンドブック

1967（昭和42）年  
厚生省環境整備課監修  
ねずみ駆除協議会編  
日本環境衛生協会刊  
定価 800円



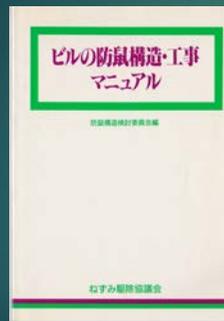
## 映画・スライド作成

年 月	内 容
1969 (昭和44) 年	映画「あなたの町のネズミ作戦」
1974 (昭和49) 年	ネズミの生態写真 (白黒)、4枚1組の組写真を4組作成
1978 (昭和53) 年	カラースライド第1編「種類と習性」制作
1979 (昭和54) 年	カラースライド第2編「行動と被害」制作
1981 (昭和56) 年	カラースライド第3編「駆除」制作

## 生息実態アンケート

年	内 容
1984 (昭和59) 年	東京都、大阪府、福岡県のPCOにアンケート調査実施
1988 (昭和63) 年	第1回「ネズミの生息に関するアンケート調査報告書」発行
2003 (平成15) 年	第2回「ネズミの生息に関するアンケート調査報告書」発行
2013 (平成25) 年	ねずみ情報No.67「特集：ねずみに関するアンケート調査報告書」発行
2013 (平成25) 年	ねずみ情報No.68「資料：ねずみに関する関東地区自治体アンケート調査報告書」発行

## 「ビルの防鼠構造・工事マニュアル」 (A5判) 1990 (平成2) 年



- 1章 防鼠構造・工事の歴史
  - 2章 防鼠構造・工事の基本概念
  - 3章 防鼠構造にかかわるねずみの生態
  - 4章 建築物内のネズミの行動実態
  - 5章 防鼠工事の実際
  - 6章 防鼠構造・工事基準案
  - 7章 防鼠に関する法律、基準
- 防鼠構造に関する参考文献

## 「都市のネズミによる被害実態」 A5判 1995 (平成7) 年



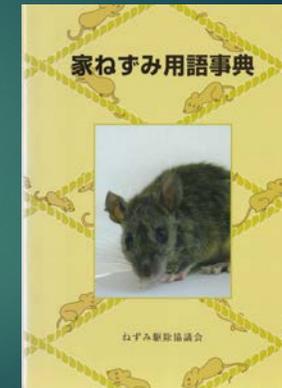
## ねずみ情報No.48「特集：日本における ネズミ防除史」発行1997（平成9）年



1. 昭和初期までのネズミ防除史
2. ネズミ防除における行政史
  - 1) 国を中心にした対応
  - 2) 地方自治体における対応  
東京都・大阪府・神奈川県  
愛媛県・北海道・新潟県・神戸市
3. 天敵による防除
4. ネズミ駆除剤
5. ネズミ防除機器
6. ネズミ駆除と業界物語り
7. ねずみ駆除協議会年表

## 「家ねずみ用語事典」発行

2006（平成18）年  
ねずみ用語検討委員会編



## 川口市におけるネズミ駆除実験実施 1974（昭和49）年

場 所：川口市芝一丁目町会

日 程：説明会・アンケート配布10月29日

駆除実験 1月14日～20日

報告会 昭和50年3月19日

実験方法：A地区 シリロシド・クマリン系製剤

B地区 シリロシド 市が一斉配布の5倍量

C地区 シリロシド 市の配布量と方法による

実験結果：A地区 配布量4038、消失量224 消失率5.5%

B地区 配布量1273、消失量49 消失率3.8%

C地区 配布量403、消失量13 消失率3.2%

## まとめ

- ▶ 毒餌消失量は配置量 5714個に対して286個（消失率5%）と少なかった
- ▶ ネズミの生息が少なかった
- ▶ 地区組織活動の中で最良の駆除法の検討には十分な資料を得られなかった
- ▶ 事後のアンケート結果から、地区ぐるみのネズミ駆除が必要と回答した人が92%あり、一斉駆除の必要性が確認された

「ネズミの研究施設」(通称:ネズミ小屋)  
完工(1971年,昭和46年)  
東京大学医科学研究所寄生虫研究部内



閉鎖環境におかれたネズミについての  
レポート 佐々 学

- ▶長さ2.7メートル、幅1.8メートル、高さ3メートルの室を三つ並べたもの
- ▶小さな鉄扉があり、それをあけると隣の室にもネズミが出入できる

閉鎖環境におかれたネズミについてのレポート  
佐々 学(熱帯への郷愁)

日時	観察経過
1971年6月5日	ドブネズミの雄3頭、雌1頭放逐
7月	3頭の雄の間に争いがはじまる
9月1日	子を7頭産んだが、それは2、3日のうちにみんな親に食べられた
9月13日	1号雄は全身軟傷をこうむって死んだ
9月26日	第2回の出産、赤ん坊たちを育てずに、みんな食べてしまった
10月22日	第3回の出産、すべて食べられてしまった
11月20日	第4回、11頭出産
11月22日	3号雄は全身咬症で死亡、子ネズミはすべて育つ
1971年1月19日	第5回、8頭出産 子ネズミは強く大きい順に雄親に6月までに殺されていった 一番小さくて弱い、12号雄が1972年一ぱい生存 雌4頭はみんな一年以上生存して、1973年の正月を迎えた 雌同士の間にも出産と育児のための巣の確保という目的で、優劣の順位がつき、原則として最上位の雌だけが子を育てられる
1972年10月	最高の55頭にまで鼠口が膨張
1973年5月末まで	どの雌ネズミにも出産がみられない、
1974年4月末	雄同士、雌同士の闘争の末、26頭になってしまった

クマネズミ抵抗性試験

1980年3月、都内大手町のビルよりクマネズミ6頭捕獲、ネズミ小屋に放逐、1年半で27頭に繁殖した  
無毒餌の種類を変えたところ数日間は喫食が少なく、元に戻るまで5日間を要した  
無毒餌と毒餌を併置したところ、毒餌はほとんど食べなかった  
ワルファリン毒餌と水だけ与えて73日間観察したところ、27頭のうちに5頭(18.5%)が生き残った。

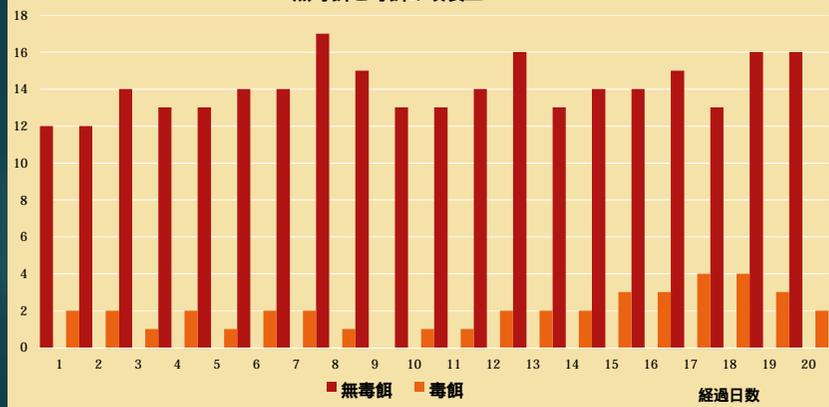
## クマネズミの繁殖観察



## 無毒餌喫食試験



## 無毒餌と毒餌の喫食量



## 毒餌喫食の推移 (1頭当たり平均)



## 1974年 衛生動物被害実態調査

東京都など12都道府県、名古屋市など3市

配布総数 447、回答率 28.2%

被害種別相談件数

ネズミ33.0%、蚊9.4%、ダニ8.2%、ドクガ7.5%、ゴキブリ7.4%、ハエ7.3%、  
ナンキンムシ6.2%、ノミ1.2%、ユスリカ1.2%、ヤスデ0.6%

1 役所当たりの相談数129件

相談に対する対処

口頭52.4%、現場へ行く38.5%、PCO紹介9.2%

場所別 一般住宅56.5%、下水溝8.0%、飲食店7.8%、団地4.5%

## 生息実態アンケート調査

年	種類	地区	クマネズミ (%)	ドブネズミ (%)	ハツカネズミ (%)
1988年	ビル		76.9	45.7	20.7
	住宅		62.8	43.0	31.4
	全体		57.3	59.4	36.2
2003年	ビル		83.9	37.9	7.5
	住宅		64.0	34.2	27.3
	全体		65.9	40.1	31.4
2013年	ビル		82.4 (東京94.7)	24.6	3.5
	住宅		61.8	29.3	20.4
	全体		65.2	33.0	24.8

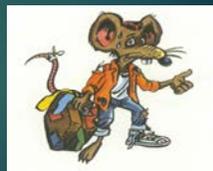
## 厚生労働省医薬食品局審査管理課へ 殺鼠剤の許認可に関する要望書提出 (2009年3月)

1. プロ専用薬剤の承認推進をお願いしたいこと。
2. WHOが勧告しているように、新規承認が促進されるよう  
試験項目を簡素化し、開発コスト及び承認手数料を軽減する  
ようご配慮いただきたいこと。
3. 感染症発生等、緊急時に備えて、行政における備蓄を  
推進していただきたいこと

## ねずみ駆除協議会設立から52年

- ▶ 地区衛生組織、衛生班全盛期、環境衛生大会は活気に溢れていた
- ▶ 市町村による殺鼠剤配布、殺鼠剤市場は大きかった
- ▶ PCO協会が設立された、ビルはPCOが防除を担った
- ▶ クマネズミの増加
- ▶ 難防除、殺鼠剤抵抗性を獲得
- ▶ 粘着トラップの全盛、防鼠工事の普及
- ▶ 伝染病予防法の廃止、行政による殺鼠剤配付・そ昆担当者が激減
- ▶ 殺鼠剤開発の縮小、撤退
- ▶ 建築物衛生法にIPMが導入される、環境整備の重要性が見直される
- ▶ ねずみ駆除協議会への期待が高まる（ね協研究会の参加者増加）
- ▶ ねずみによる感染症の拡大懸念
- ▶ 今後は殺虫剤・殺鼠剤を薬機法からはずし一元化、使用制限、資格制度が望まれる

ご清聴ありがとうございました



*NPMA*